Ⅳ

学部・研究科等による取組み

Ⅳ－４　東京キャンパス

キャンパス共通事項 …… 155

人文学部 …… 158

キャンパス共通事項

教務委員会

関 連 方 針	12－2．卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標			
前回点検評価 実 施 年 度	2022年度	次期評価 実施年度	2024年度

❶ 2023年度の目標及び計画　*Action・Plan*

目標･計画策定日	2023年3月19日	担当組織確認日	2023年4月9日

① 個々の学生の状況を把握し、必要に応じた学修支援を行うため、各学期においてオリエンテーションやゼミ等の活動内での履修指導もしくは個別面談の実施を、教務委員会から積極的に要請していく。
② 対面授業におけるWebを利用した学習支援システムおよび教材の利用について、教員間で使用法を共有し、より効果的に活用できるようにする。また、引き続き、学生へのWeb学習支援システムの利用法の周知・解説、情報倫理教育を行っていく。
③ 令和5年度以降の教育システムの改革を推進するなかで、必要に応じてカリキュラム編成や履修モデルの精査を行う。
④ 令和5年度から新たに開設される学生相談室との連携をはかりながら効果的な学生支援のありかたについて検討をすすめる。

❷ 計画の取組み状況　*Do*

点検･評価実施日	2024年3月19日	担当組織確認日	2024年3月19日

① 各学期においてオリエンテーションやゼミ等の活動内における履修指導、初年次セミナーの欠席者へのフォローを担当教員へ依頼した。また、学生の成績評価（GPA）を基に支援の必要な学生を抽出し、学生相談室、各学科教員と連携して面談を実施して学習支援を行った。その結果は、面談記録として報告し、継続的な支援に活かす体制を整えた。また、1年次の前学期には個別面談を実施した。
根拠資料 2023年2月教学委員会資料、2023年4・5・9・10・12月・2024年2月キャンパス教務委員会資料、GPA面談記録
② 対面授業におけるブレンド型授業実施に関する申し合わせや、非常時の遠隔授業対応について検討を加えて方針をまとめた。次年度からブレンド型授業を推進するため、各教員から所属学科長へ申し出る際の様式を作成し、Web学習を活用しやすい環境作りに努めた。また、Google Workspace for Education有償版ライセンスを更新した。新入生にはオリエンテーションや初年次セミナーで、学内システムの説明や情報倫理教育を実施した。
根拠資料 2023年4月人文学部教務委員会資料、2024年2・3・6月キャンパスおよび人文学部教務委員会資料、各学科初年次セミナー用教材資料
③ 新カリキュラムの実施にともない、学生便覧カリキュラム表の精査を行った。また、新カリキュラムにおける休学・再履修時の専門演習の取り扱いについて検討を加えるとともに、学生便覧の卒業要件のうち、各学科の規定である「その他の履修条件」についても精査した。
根拠資料 2023年6月キャンパス教務委員会資料、2024年2月人文学部教務委員会資料
④ 学生相談室と連携し、修学上配慮を要する学生への対応、初年次セミナーの欠席者へのフォロー、GPA面談の実施を行った。また、学生相談室が作成したGPA面談のフローを教務委員会で確認し、本キャンパス教職員と共有した。
根拠資料 2023年4・5・9・10月・2024年2月キャンパスおよび人文学部教務委員会資料

❸ 点検・評価　*Check*

① 各学期においてオリエンテーションやゼミ等の活動内での履修指導や個別面談実施の依頼を行うことができた。ただ、既に卒業延期を保証人に面談にて説明しているにもかかわらず、再度面談を担当アドバイザー等に依頼するケースもあった。
② Webを利用した学習支援システムおよび教材の利用について、教員間で使用法を共有する機会はなかった。ただ、次年度に遠隔授業やブレンド型授業を本格的に導入していくための準備は整えるこ

とができた。

③　新カリキュラム開始にともなうカリキュラム編成や履修モデルの精査によって、大きな問題は起きてはいない。今後も、２年次以降のカリキュラムにおいて精査を続ける必要はある。

④　本年度から学生相談室主導で個々の学生の状況把握が進められており、学生相談室と連携しながらGPA面談など学生へのフォローができている。ただ、学生の単位修得状況やカリキュラムについて、学生相談室が充分に理解できていないケースもあった。

4 改善方策及び改善計画　*Action*

①　個々の学生の状況を把握し、必要に応じた学修支援を行うため、各学期においてオリエンテーションやゼミ等の活動内での履修指導もしくは個別面談の実施を、教務委員会から積極的に要請していく。GPA面談を依頼する際は、既に卒業延期が決まった学生に対し、保証人に伝達済みであるかを確認した上で面談を依頼する。

②　Webを利用した学習支援システムおよび教材の利用について、教員間で使用法を共有し、より効果的に活用できるようにする。また、引き続き、学生へのWeb学習支援システムの利用法の周知・解説、情報倫理教育を行っていく。

③　令和５年度以降の教育システムの改革を推進するなかで、必要に応じてカリキュラム編成や履修モデルの精査を行う。

④　令和５年度から新たに開設された学生相談室との連携をはかりながら効果的な学生支援のありかたについて検討をすすめる。

キャンパス共通事項

募集・入試委員会

関 連 方 針	13. 入学者受入れの方針		
関連成果指標			
前回点検評価 実 施 年 度	2022年度	次期評価 実施年度	2024年度

1 2023年度の目標及び計画 *Action・Plan*

目標･計画策定日	2023年3月7日	担当組織確認日	2023年4月11日

① オープンキャンパスのプログラム充実により参加人数の増加をめざす。
② 合否判定を慎重に行い、入学定員の確保をめざす。

2 計画の取組み状況 *Do*

点検･評価実施日	2024年3月5日	担当組織確認日	2024年3月12日

① 高校生の動向を調査し、オープンキャンパスの開催時期や内容を精査するとともにアドスタッフに対する指導を充実させるとともに各学科の展示スペースを拡大、充実し、大学での学びを受験生へ伝え、満足度の高いオープンキャンパスを実施できた。
オープンキャンパスの合計参加人数は以下の通り。
人文学部　受験生1,246人（うちWeb型125人）、保護者828人
経営学部　受験生1,186人（うちWeb型57人）、保護者721人
また、オープンキャンパスでは午前、午後の二部制を採用したり、オンラインによる参加を認めるなどの改善がみられた。入試早期化を考慮し、入試対策イベント（志望理由対策、小論文対策、面接対策）を実施した。
なお、出張講義については人文学部15件、経営学部7件であった。
根拠資料 人文学部、経営学部出張講義
② 合否判定では歩留まり率での併願状況を勘案し、各学科の実情に合致した入学定員確保に努めた。

3 点検・評価 *Check*

① 年内合格を考える高校生の増加に伴い、オープンキャンパスの早期化と魅力的な内容として、ターゲティングバナー広告、デジタルサイネージ、高校生支援事業を行う企業が持つ高校生リストに向けた広告媒体の発信等は継続が望まれる。
② 歩留まり率での併願状況を勘案し、入学定員を確保することができた。

4 改善方策及び改善計画 *Action*

① 柔軟な入試形態の対応とオープンキャンパスの充実により淑徳大学の魅力を発信する。
② 歩留まり率での併願状況を勘案し、入学定員の獲得を目指す。
③ 入試方法を充実させ、入学定員の確保を目指す。

人文学部

歴史学科（教育課程）

関連方針	12－2．卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標	1－8－1		
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

❶ 2023年度の目標及び計画　*Action・Plan*

目標･計画策定日	2023年3月28日	担当組織確認日	2023年4月20日

① 学生の履修支援および生活環境の状況把握のため、すべての学年の学生に対して必要に応じて個別面談を実施する。学生相談室との連携も強化する。
② 科目間連携の充実を図ることを目的に、履修体系図に沿った科目間連携のあり方について、学科FDを実施する。
③ 連携協定を結んでいる板橋区および八潮市との間で進められている連携事業の深化拡充を目指す。また、新しい連携プログラムの可能性についても検討を進める。
④ 歴史学科独自の各学年の学生運営組織と東京キャンパスの学生組織を連動させつつ、歴史学科の学生が主体的に学科の運営に参加できる仕組みを充実させる。
⑤ 歴史学科の教育資源・研究資源・人的資源を一層活用するための新たな組織を立ち上げ、教員・学生・卒業生のネットワークの充実をはかる。

❷ 計画の取組み状況　*Do*

点検･評価実施日	2024年3月26日	担当組織確認日	2024年3月26日

① 1年次生は初年次セミナー後のクラスアワーにてすべての学生と個別面談を実施し、学びに関する相談を行った。また、歴史専門演習Ⅰの初回授業にて履修確認を実施した。2年次・3年次・4年次生は担当教員が、学年はじめのオリエンテーション履修指導を実施し、各ゼミにて履修および学びに関する面談を適宜実施した。また1年次生のクラスアワーを利用し、学士力ルーブリックによるリフレクションを前、後期とも実施した。
根拠資料 初年次セミナー・クラスアワー予定表　歴史専門演習Ⅰ／在学生オリエンテーション日程
② 複数開講の同一科目について、担当教員間で学力測定および評価方法の情報共有を随時行った。特に新カリキュラムで本年度より開始した初年次セミナーおよび歴史専門演習Ⅰについては学科会において議論した。また、12月学科会および1月の学部FDでは卒業論文ルーブリックについて修正点を含め議論した。
根拠資料 6月･12月･1月歴史学科学科会議事録
③ 包括地域連携協定を結んでいる八潮市の市立郷土資料館との連携事業が、着実に進展した。前年度に引き続き歴史調査実習Ⅱの授業において、八潮市をフィールドとしたグループ学習を行い、学内の展示施設・八潮市立資料館においても展示し、学修成果を八潮市民に還元できた。また、博物館課程の科目（博物館実習・博物館教育論）においても八潮市立資料館で学生による教育普及ボランティアやプログラム開発をすすめた。同じく包括地域連携協定を結んでいる板橋区とも、歴史調査実習、日本地域史などの授業において、継続的もしくは新たな連携プログラムを実施した。
根拠資料 歴史調査実習成果報告　包括連携協定
④ 歴史学科独自の学生運営組織として、歴史資料室員（4年生8名）、ゼミ長会（3年生8名）、歴史学科オープンキャンパス学生アドバイザー（2・3年生・15名）、歴史資料室図書整理アルバイト（短期、1年生・2年生10名）を組織した。学生が学科の運営に参加できる仕組みの骨格ができてきた。今後は東京キャンパス全体の学生組織を連動させつつ、より多くの学生が運営に参加できる仕組みを充実させる。
根拠資料 4月･6月･2月歴史学科学科会議事録
⑤ 歴史学科の教育資源・研究資源・人的資源を一層活用するため、新たな組織として「淑徳大学歴史学会」を立ち上げた。運営には教員、在学生とともに卒業生も加わるかたちを整えた。
根拠資料「淑徳大学歴史学会会則」　「淑徳大学歴史学会設立総会資料」

❸ 点検・評価 *Check*

① アドバイザー教員及びゼミ担当教員より、１・３・４の各学年で個別面談を実施できた点は評価できる。また学士力ルーブリックによるリフレクションも、前学期・後学期に実施できた。今後も引き続き学生の生活環境の把握と履修指導に繋げる取り組みが求められよう、学生相談室とも連携しつつ、より一層充実した学生支援を実施したい。

② 複数開講の同一科目については、担当教員間で密に連絡を取り合った結果、学力測定および評価方法を合わせることができた点については評価できる。今後は科目間連携についても同様に、履修体系図に沿った展開を視野に、連携を模索していくことが求められよう。卒業論文などの歴史学科独自のルーブリックについて、随時見直しと検証を進めて行きたい。

③ 八潮市との連携事業は着実に実施され、拡充している点は評価できる。今後もこの方針に沿って、学生主体のプログラムを発展させていきたい。また、板橋区との連携事業についても進展しており、引き続き拡充していくことが求められよう。

④ 歴史学科独自の学生運営組織に40名以上の学生が参加したことは評価できる。一部の学生が重複して参加している場合もあるので、裾野を広げていく必要がある。また、東京キャンパス全体の学生組織との連動を進め、歴史学科全体でより多くの学生が参加する体制を整える必要がある。

⑤ 淑徳大学歴史学会を立ち上げたことは評価できる。しっかりと継続させる必要がある。

❹ 改善方策及び改善計画 *Action*

① 学生の履修支援および生活環境の状況把握のため、すべての学年の学生に対して必要に応じて個別面談を実施する。また、学生相談室との連携を強化するために、アドバイザーと学生の紐付けについても検討する。

② 科目間連携の充実を図ることを目的に、履修体系図に沿った科目間連携のあり方について、学科会で学科FDなどを実施する。

③ 連携協定を結んでいる板橋区および八潮市との間で進められている連携事業の深化拡充を目指すとともに、新たな組織との連携プログラムの可能性についても試行する。

④ 歴史学科独自の各学年の学生運営組織を充実させるとともに東京キャンパス全体の学生組織との連動を活発化させ、歴史学科の学生が主体的に学科の運営に参加できる仕組みを充実させる。

⑤ 「淑徳大学歴史学会」を拠点として教員・学生・卒業生のネットワークの充実をはかり、歴史学科の教育資源・研究資源・人的資源を一層活用する。

人文学部

表現学科（教育課程）

関連方針	12－2．卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標	1－8－1		
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

1 2023年度の目標及び計画　*Action・Plan*

目標･計画策定日	2023年3月28日	担当組織確認日	2023年4月25日

① 学年ごとの履修指導や志望コースに応じた情報提供など、すべての学年の学生に対してフォローアップを行う。学生相談室との連携も強化し、課題を抱える学生の早期フォローと状況改善をはかる。
② 新カリキュラムへの移行をスムーズに行い、ディプロマポリシーに沿った各コースの履修体系の充実を図ることを目的に、授業内容の共有と点検を学科会で実施する。
③ 板橋区との連携事業の継続・拡充を目指す。ゼミの学年だけでなく1年次から参加できるプログラムの検討を進める。
④ 学生が表現学科での学びと自分の強みを生かした進路選択と就職活動が行えるよう、キャリア支援室と連携してきめ細かなキャリア支援を行う。

2 計画の取組み状況　*Do*

点検･評価実施日	2024年3月26日	担当組織確認日	2024年4月12日

① 1年次生には前学期のクラスアワーでアドバイザー教員が個別面談を実施した。また、新カリキュラムに伴い2023年度入学生からは2年次に進む段階でコース選択を行うため、1年後学期「表現文化専門演習Ⅰ」の中で履修体系の説明と希望コースの調査を実施し、3月のオリエンテーションでは2年次以降の専門教育科目の詳細説明を行った。2～4年次生に対しては、オリエンテーションでの履修指導のほか、学生の志望コースや研究テーマに応じて専任教員が個別に助言を行った。
欠席の多い学生に対しては、学生相談室と連携し情報共有とフォローアップをはかった。

根拠資料
- クラスアワースケジュール
- 表現文化専門演習Ⅰスライド資料（第1回：表現学科の専門演習と履修体系、第15回：ふりかえりと履修プラン作成）
- 新2年生向け在学生オリエンテーションスライド資料

② 前年度に検討した専門教育科目の一部内容変更と教員変更を実施した。また、新規開講の「初年次セミナー（学習の目的と技術）」では入学前課題（専門Pre学習）を用いた演習を採り入れ、標準テキストからの引用部分やスライド資料を教員間で共有しチームティーチングを行った。2024年度に新規開講する「表現文化専門演習Ⅱ・Ⅲ」については、各コースの授業内容を11月の学科会で共有し、履修体系に沿った内容点検とシラバス準備を進めた。

根拠資料
- 該当科目シラバス
- 初年次セミナー（学習の目的と技術）資料
- 11月度 表現学科 学科会議事録

③ 包括地域連携協定を結んでいる板橋区との間で、学生が学科の学びを生かして参加する活動を実施した。区が推進する「絵本のまち板橋」に関連した活動では、板橋区立中央図書館からの依頼で「いたばし国際絵本翻訳大賞」のPR動画を制作しYouTubeの区の公式チャンネルで随時配信されたほか、オープンキャンパスにおいて学生が選書した絵本の紹介を行うミニイベントをアドミッションとともに企画・実施した。

根拠資料
- 淑徳大学ホームページ（Shukutoku Picks）各記事（掲載日）（題名）
  - 7/28（金）SDGsをテーマに選んだ絵本を学生がプレゼンテーション
  - 8/29（火）「いたばし国際絵本翻訳大賞」のPR動画を制作！表彰式も取材
  - 9/10（日）板橋区のイベントで白寄ゼミが影アナウンスを担当
  - 10/18（水）クラシックのコンサートで影アナウンスを担当
  - 11/ 8（水）板橋区の教育科学館＆地元企業と連携したワークショップ
- YouTube　板橋区公式チャンネル　@cityitabashi

④ キャリア支援室との連携をはかり、学生の志望進路や就職活動の進捗に応じてゼミ教員からの助言や行動促進を行った。また、1年次生向けキャリアガイダンス（7月）と3年次生向けキャリアガイ

ダンス（10月）では内定獲得済の４年次生に協力を仰いだほか、全学年対象のキャリアガイダンス（11月）では広告代理店で活躍している卒業生を招き、学生が先輩の話を聞ける機会を設けた。

根拠資料 ●キャリアガイダンス　案内資料
7/21（金）クラスアワー内キャリア支援ガイダンス「先輩の話を聞こう！」
10/26（木）人文学部３年生キャリア支援ガイダンス　グループカウンセリング
11/23（木・祝）キャリアガイダンス「OBOGの話を聞こう」

❸ 点検・評価　*Check*

① １年次生に対し入学直後の出席状況確認や個別面談を行い、要フォロー学生を早期に特定できた点が評価できる。また、２年次に向けてのコース選択について１年後学期から段階的な説明を行い、１年次修了までに全員のコース選択が完了した点も評価できる。ただし、希望者の多かったコースは履修人数が40名を超えたことから、専門演習としての教育効果を毀損しない適正人数や人数に応じた運営上の方策などを、他学科の例も参考に学科内で検討していく必要がある。また、学生相談室の拡充に伴い全学年へのフォローアップ体制が整い、これまで課題だった２年次生の情報を早期にキャッチアップできるようになった。引き続き学生相談室や学事と連携し、切れ目のない学生支援を定着化していきたい。

② 新カリキュラムに伴う新規開講科目では、専任教員間で役割分担し学科会で随時情報を共有したことによって、混乱なくチームティーチングができた点が評価できる。次年度以降は、開講年次変更や教員体制変更などによる各教員の負担増が予想されるため、学科全体での情報共有やシステム化を進め、より効率的で持続性の高い学科運営体制を構築する必要がある。

③ 学科スタートから10年を経て板橋区との地域連携も充実してきた。とくに動画制作やPR企画など、表現学科の専門性を生かした活動が拡充できた点は評価できる。今後は地域連携の取り組みの進捗についても随時学科会で共有し、新任教員も含めて学科全体で地域連携を推進する体制を整えたい。

④ 新卒採用の売り手市場を追い風に１年次からの継続的なキャリア支援が功奏し、高い内定決定率を保持できている。とくに狭き門とされるテレビ制作の映像専門職や出版社への就職実績ができた点は評価できる。一方、表現学科には声優を目指すなどの理由で就職活動をしない学生や初動が遅れる学生も一定割合いるため、早期化が進む就活事情を踏まえて、今後その層に対する支援時期や支援内容をキャリア支援室とともに検討していきたい。また、キャリア支援室と専任教員が連携して卒業生や先輩を巻き込んだキャリアガイダンスが複数回開催できた点も評価できる。20代後半で昇進や転職しキャリアアップしている卒業生も増えており、内定獲得というマイルストーンだけでなく中期的な視点で学生が自分のキャリアと学生時代の過ごし方を考える機会を今後も設けたい。

❹ 改善方策及び改善計画　*Action*

① １年次から卒業年次までの段階的な履修指導（ガイダンス、面談、個別指導など）について検討・実施する。とくに新カリキュラム「表現文化専門演習Ⅳ～Ⅶ」に向けたゼミ選択や卒業研究のあり方は、旧カリキュラムからの変更点・改善点を踏まえて学科内で検討する。

② 新カリキュラムや専任教員体制の変更に対応するため、学科内の情報共有化（いつでも参照できる一覧化など）とシステム化（共有ドライブでの情報管理など）を推進する。

③ 板橋区や地域社会との連携をはかり、学生が地域・企業・社会との接点から学びを深める機会を拡充する。

④ 学生が表現学科での学びと自分の強みを生かした進路選択や就職活動が行えるよう、引き続きキャリア支援室と連携し支援していく。とくに就職活動の早期化や長期化を踏まえた支援を検討・実施する。

人文学部

人間科学科（教育課程）

関連方針	12－2．卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標	1－8－1		
前回点検評価実施年度	――	次期評価実施年度	2024年度

❶ 2023年度の目標及び計画　*Action・Plan*

目標･計画策定日	2023年4月1日	担当組織確認日	2023年4月25日

① 学生の履修支援および生活環境の状況把握・支援のため、すべての学生（1年生のみ在籍）への個別面談実施を目指す。さらには、学生に関する情報共有を素早く実施するシステムをつくり、学科全教員間で学生一人ひとりの課題を共有しその解決に務める。

② 人間科学科は4領域を横断する様々な科目が設置されており、わかりやすい学修環境を整えるためには、履修体系図に沿った科目間連携のあり方が重要である。特に、今年度開講している人間科学科主要科目であるオムニバス形式（5名の教員が担当）の「人間科学概論」（1年次前期）のシラバスの一貫性を検討する。

③ 公認心理士資格取得を視野に入れている学科であるため、そのために必要となってくる教育環境の充実を図る。

④ 大学が八潮市との間で進めている連携事業等の活動を充実させるとともに、近隣の小中高や福祉施設との連携のあり方を模索する。また、新しい教育プログラムとして、客員教授による効果的な学修について検討を進める。

⑤ 4領域の教育を展開する特殊な学科であり、個々の専門性の違いから教員間の学科認識の統一は難しいだろうが、学生の4年間の学修活動がスムーズにいくように、初年次セミナーや専門演習Ⅰの内容は学科内で検討し統一を図る。

❷ 計画の取組み状況　*Do*

点検･評価実施日	2024年3月14日	担当組織確認日	2024年3月26日

① 専門演習Ⅰやクラスアワーにおいて、すべての学生と個別面談を実施し、新しい生活や大学での学修指導、健康面での指導、希望する将来像などに関する考え等を確認したり相談を受けることができた。学生ポートフォリオと個別面談シートを作成し、そこに情報を記載することで速やかに情報共有することができた。また、学科会では、学生に関する情報共有の時間を設けたり、半期ごとに成績や休学退学等の確認・対策検討を行った。

根拠資料 クラスアワー年間予定表、学生ポートフォリオ、個別面談シート、学科会資料および議事録

② 人間科学概論のシラバスを共有し、お互いに授業参観なども実施し、さらには学修評価についても情報共有し合って採点することができた。2年次の専門演習の学修にスムーズに連結していけるように、各領域（心理、福祉、健康、教育）内での打ち合わせや話し合いができていた。

根拠資料 学生便覧、該当科目シラバス、学科会資料および議事録、学生授業アンケート、公開授業報告書

③ 心理実習運営委員会を立ち上げ、毎週会議を開催し、心理演習、心理学実験、心理実習の運営方法、公認心理士資格のための学生指導内容、心理学演習室や実験室の設備検討、心理実習先の病院・施設との連携、淑徳大学大学院総合福祉研究科心理学専攻修士課程特別選抜入学試験の依頼などについて議論し準備を進めることができた。

根拠資料 学科会資料および議事録、心理実習運営委員会資料および議事録

④ 八潮こども夢大学では心理学のテーマでグループワーク「錯視図形のワークショップ」を行い、人間科学科の在学生も担当者として活躍した。保護者を含め15名の参加者とともに楽しく有意義な交流の時間となった。また、近隣の西台中学校の校長先生にも学生全体へのオリエンテーションを行っていただきながら、中学生の居場所づくりボランティア「ハートルーム」での活動をスタートさせた。板橋区子ども家庭総合支援センターへの見学なども行い、客員教授3名による授業も実施することができた。

根拠資料 八潮こども夢大学活動報告書、西台中学校でのハートルームボランティア報告会資料、客員教授講義の資料

⑤　初年次セミナーの内容検討（シラバス）・役割分担・評価基準、専門演習Ⅰの内容検討（シラバス）・役割分担・評価基準、クラスアワーでの学生状況の確認の仕方、人間科学科で取得できる資格の内容の情報共有、心理実習運営委員会での討議内容も学科会の中で情報共有することができた。検討事項や決定事項はいつでも確認できるようなシステム構築ができた。

根拠資料　初年次セミナー・専門演習Ⅰのシラバス、学科会資料および議事録

❸ 点検・評価　*Check*

①　人間科学科の学生は通信教育を受けてきた学生が２～３割おり、また、人間関係だけでなく、身体面・精神面での課題を抱えた学生、様々な家庭の悩みを抱えながら入学してきた学生も多い。学生ポートフォリオや個別面談シートでの情報共有はスピーディで効果的な学生指導に役立てることができた。学科会での情報共有の時間も全教員の協力のもと、積極的な意見交換ができていた。アドバイザー教員による学生との個別面談により、学生と教員間の関係構築の機会になっていると評価できる。引き続き、着実に実施していきたい。

②　お互いの授業参観を積極的に行うことができており、授業方法や構成、教材研究の知識が深まっている。そのことで教員間の人間関係構築にも繋がっている。人間科学概論の学生授業アンケートやリアクションペーパーにおいては、様々な領域の視点が学べて、将来の道が拡がったという自由記述があり、オムニバス形式でも一貫性がありわかりやすかったのではないかと評価できる。今年度は１年生のみのためS-BASIC科目が多かったが、来年度は科目間連携についてさらに検討していく必要がある。

③　心理実習運営委員会のメンバーが主軸となり、様々な議論・準備を行い、それについて毎回、学科会の中で報告し全教員間で確認し合い理解しながら進めている点が評価できる。心理演習室や実験室、人間科学科共同研究ルームは３号館に来年の10月には完成する予定であるので、様々な教室や備品、機材などについても引き続き学科内で情報共有し進めていく予定である。

④　八潮市や西台中学校における小中学生との関わりは、人間について探求していく人間科学科の学生にとって効果的な学修の場といえる。今後もさらに様々な機会を導入していく必要がある。外部講師による「アロマテラピーの実践」「車いすラグビー選手との関わり」「認知症ケアの実践者との関わり」も学生が将来の方向性を決める上で重要な機会となると評価できる。

⑤　初年次セミナーや専門演習Ⅰのシラバスを統一させ、全教員で役割分担を行い協力体制がつくられたところは評価できる。一人ひとりの教員が積極的に学科運営に関わっており意見交換も活発に行われている。来年度、専門演習Ⅱ、Ⅲと進めていく中で、さらに点検・評価を進めていきたい。

❹ 改善方策及び改善計画　*Action*

①　来年度は学年が増え、教員一人が担当する学生の人数が増えていくことにより、教員の負担が増加しないよう、学科内での情報共有をさらに密に行い、学科全体で支援するという体制を強化していく。さらには、学生相談室や保健室の先生方、保護者の方との連携を強化しながら履修支援、学生生活支援を実施する。

②　学修効果を上げるために科目間連携の充実を図る。特に連続的な科目においては担当者間での情報共有の場をつくり、学修内容等を確認し合う体制を検討する。

③　心理学教育・人間科学科の教育の充実を図るため、人間科学科共同研究ルーム、心理演習室・実験室等の設備や備品の整備を行い、学生にとって学びやすい環境を整えていく。

④　現在行っているボランティア活動については継続していき、学生が主体的に学びを深めていけるよう支援を続けていく。４領域の学びができる学科であるという特徴を最大限に活かしていけるよう、新たな連携プログラムを模索していく。

⑤　人間科学科の教員の研究室は来年度10月に移動し、２号館、３号館に集結することになる。今年度以上に対面で話し合いやすい環境がつくられ、さらに活発な議論ができると予測できる。環境が安定するまでネットワークの強化を図っていく。

人文学部

人文学部教育向上委員会

関連方針	2－2．大学として求める教員像、教員組織の編成方針		
関連成果指標			
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

❶ 2023年度の目標及び計画　*Action・Plan*

目標･計画策定日	2023年4月11日	担当組織確認日	2023年4月11日

人文学部設置趣旨にある学部・学科の教育研究の目的、具体的な到達目標を教職員で共有し、設置趣旨に沿った人材を養成すべく、教育向上につなげる。そのために以下のことを目標に掲げる。

① FD活動の充実を図る。（6－13）
オンライン授業により培ったノウハウを活かし、アフターコロナを念頭に置いた実践的な授業運営に資するようなFDを計画する。（6－13）

② 多様な学生一人ひとりと向き合えるような授業が求められているため、「振り返りアンケート」をもとに、教員一人ひとりの教育活動改善につながるよう、教育向上委員会で検討し、必要に応じて教員との面談を実施するなどの対応を行う。（4－31・4－32・6－12）

③ 学生の授業時間外学習時間の充実。
事前事後学習の検証についても、実態に即した調査が必要とされる。

④ シラバス作成について検討を加える。（4－31・4－32）
本学部の教学委員会と連携を取りつつ、教育向上につながるシラバスの作成方法について検討する。

❷ 計画の取組み状況　*Do*

点検･評価実施日	2024年3月1日	担当組織確認日	2024年3月1日

① 全4回のFDを計画し、実行した。
第1回　3月25日（土）「人文学部における学生の現状と課題」
第2回　5月23日（火）「発達障がいのある学生の対応について」
第3回11月21日（火）「シラバスの作成について」
第4回　1月30日（火）「ディプロマポリシーに対応したラーニングアウトカムのあり方について」
根拠資料 2023年度（令和5年度）ファカルティ・ディベロップメント研修会報告書

② 授業アンケートと教員振り返りコメントの内容を、委員会内で検討し、7月18日（火）と9月2日（土）にそれぞれ1名ずつの教員と面談を実施した。
根拠資料 2023年度教育向上委員会議事録（6月・7月）　2022年度後学期の授業アンケートにもとづく面談記録

③ 歴史学科・表現学科の各学科長に対し、それぞれの学科会にてIR推進室より提示された学修行動調査の調査結果について検討を加えていただくように要請した。
根拠資料 2022年度学修行動調査報告書・2023年9月学科会議事録

④ 次年度より予定されている学則変更で遠隔授業に関する規定がなされることに伴い、重点テーマを「対面授業・遠隔授業を踏まえたシラバスの記載方法」とし、記載方法についての認識を深めることを目的とするFDを実施した。
根拠資料 2023年度（令和5年度）ファカルティ・ディベロップメント研修会報告書

❸ 点検・評価　*Check*

① 第1回では、それぞれの学科が抱えている教育上の問題点を専任の教員と兼任講師との間で共有できた。第2回では、「発達障がい」の学生の特性と対応のあり方について、踏み込んだ議論ができた。第3回では、遠隔授業を踏まえたシラバスの記載方法について具体的な検討を行うことができた。第4回では、ディプロマポリシーに対応したラーニングアウトカムのあり方について検討し、社会が求めていることに対し、本学はどのように応えていくのか、それぞれの学部に求められていることは何なのか、そういったことを踏まえ、教育研究活動は行われるべきであることを、研修に

参加した教員の理解を得ることができた。

② 授業アンケートに記された自由記述欄をもとに２名の教員と突っ込んだ意見交換を行い、本学の学生の現状について十分に認識いただくことができた。

③ 事前事後学習の重要性について各学科の学科会の時間内で検討していただき、個々の教員の認識を深めることができた。

④ 次年度のシラバス作成に向けて、学科教員間で注意点が共有され、ブレンド型授業導入の可能性について突っ込んだ議論がなされ、改めてシラバス作成の重要性が個々の教員に再認識された。

4 改善方策及び改善計画 *Action*

① 学部学科固有の問題、学科教員が抱えている問題の解決のヒントになるようなタイムリーな研修を実施する必要がある。

② 授業アンケートにもとづく教員面談については、時には教育向上委員会のレベルを超えるものもあるため、教務委員会や事務部総務担当などとの連携が必要となる場合もある。

③ 事前事後学習の充実化のためには、より具体的な指示を教員に出してもらうような方策を考えるFDを実施する必要がある。

④ 引き続き教務委員会と連携すると共に、たとえば事前事後学習の充実化など現状で克服すべき課題の反映を盛り込んだシラバス作成の研修を実施する必要がある。